



●わが社のCSR活動

CSR

シーキューブグループのCSR活動

シーキューブ株式会社

1. はじめに

昨今、新型コロナウイルス感染の拡大を契機にしたニューノーマル時代への移行やSDGsへの取組みのさらなる強化など、企業を取り巻く事業環境が急速かつ大きく変化をしている中、企業の社会的責任（CSR）への要求は益々高まっており、CSR活動の推進は、お客様、株主様、従業員、取引先、地域社会等のステークホルダーからの信頼の獲得に不可欠な取組みとなっています。

このような事業環境の中、シーキューブグループにおいては、信頼いただける企業を目指し、コンプライアンス遵守はもとより、環境活動、社会貢献などに積極的に取り組んでおり、その活動の一部をご紹介します。

2. コンプライアンス推進の取組み

・コンプライアンス推進体制

法令遵守や倫理的な行動を実践するコンプライアンスの徹底は、CSR活動推進の基本となるものです。シーキューブグループにおいては、コンプライアンスの維持・促進・高度化を徹底していくための体制として、社長を委員長とするコンプライアンス委員会を設置するとともに、委員会の下部組織として、CSR推進部長を議長とするコンプライア

ンス担当者会議を設置しコンプライアンスに関する施策の展開や法令の改定などの情報共有を図っています。

・倫理綱領

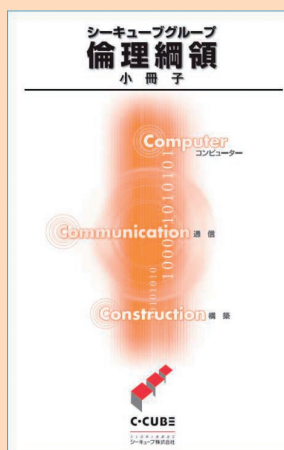
シーキューブグループでは、日々の業務を遂行する際の基本的な判断基準としての役割を担い、企業倫理をグループの企業風土として定着させるための指針となる「シーキューブグループ倫理綱領」を定めており、この倫理綱領や企業理念、後で述べる通報窓口を小冊子（資料1）にまとめ、全従業員に配布して理解を深めるとともに、これらをよりコンパクトにまとめたコンプライアンスカード（資料2）を全従業員が常時携行し、お客様対応等で迷った際に活用することで、コンプライアンス遵守の徹底に取り組んでいます。

・通報窓口

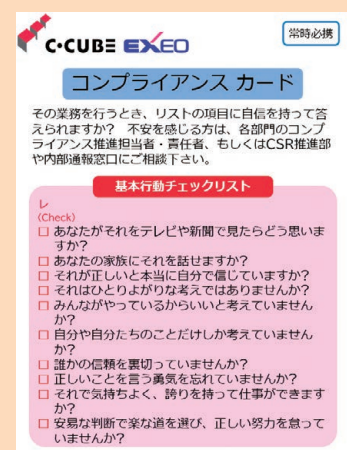
法令違反行為等の未然防止や早期発見、速やかな是正を図るため、公益通報者保護法に則った内部通報体制を構築しています。通報窓口として、社内はもとより顧問弁護士やエクシオグループ社といった社外の通報窓口も設置し、また、倫理綱領やコンプライアンスカード、またグループポータルサイトに通報窓口の連絡先を掲載するなど、通報窓口の認知度向上を図るとともに通報しやすい仕組みを整備し、自浄作用の向上や働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

・コンプライアンス意識向上に向けた取組み

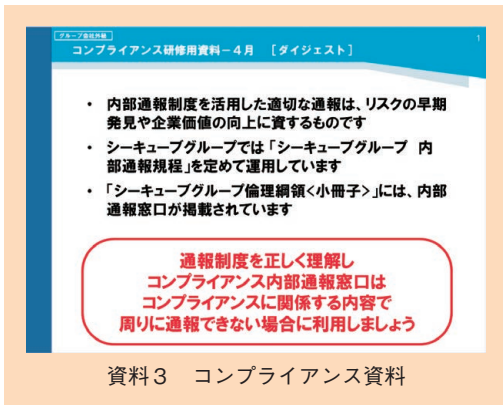
シーキューブグループでは、コンプライアンス・メールマガジンの配信や、時機を捉えたテーマにそった



資料1 倫理綱領小冊子



資料2 コンプライアンスカード



コンプライアンス資料（資料3）を月1回定期的に展開するとともに、各職場でもこれらを踏まえたコンプライアンスミーティングを毎月開催しています。

また、毎年9月には全従業員を対象としたコンプライアンス研修を、さらにエクシオグループ社と連携し、シーキューブ社役員やグループ会社社長など経営層のコンプライアンス研修も年に1回実施し、法令をはじめとするコンプライアンスに関する知識と意識の向上に努めています。

3. 新規事業における環境活動、社会貢献の取組み

1) スマートエネルギーPJ活動

シーキューブは、従前より太陽光発電設備工事やLED照明工事などエネルギー分野の設備工事を手掛けてきました。

昨今、世の中では急速にカーボンニュートラル（脱炭素）の意識が高

まっており、カーボンニュートラルは、企業にとって取り組まなければならない重要な課題となってきました。

そのような状況の中で、昨年新築した松阪ビルに太陽光発電設備やEV充放電器などのスマートエネルギー設備を導入して自社事業における環境問題改善に取り組むとともに、カーボンニュートラル社会における企業のモデル拠点としてお客様にも実際にご覧いただきながら提案を行える環境を整備しました。

松阪ビルでは、屋上に約50kWの太陽光発電設備を導入し、生成した再生可能電力を自家消費しており、4～6月の晴天時には、昼間はほとんどの電力を発電した電力で賄うことができています（写真1）。太陽光発電設備と同時にEV充放電器（V2B=Vehicle to Building）も導入しました。EVのバッテリーは走行用だけでなく蓄電池として活用する

仕組みになっており、停電時にはEV充放電器を介してEVから建物に給電し使用することができます。大規模災害発生時などは、エンジニアが作業を行う事務所にいち早く電力を供給し、早期の通信インフラ設備復旧に対応できる業務環境を構築することによりBCP強化を図りました。

導入しているEV1台で事務室1部屋の約1日分の電力を供給することができ拠点によっては複数台のEVを入れ替えることで電力供給時間を延ばすことも可能となります。また、平常時も発電して余った電力をEVに蓄え、夜間に放電することで電力コストを削減することも可能です（写真2）。

このほか、電力会社のスマートメーター、太陽光発電システム、EV充放電器をクラウドシステムにつなぎ、機器の情報をクラウド上で集約することで建物の電力消費量や発電量、EVの充電状況などを一括で管理するエネルギーマネジメントシステム（EMS）も導入しています（資料4）。

今後も、名古屋東ビル（愛知県瀬戸市）、春日井ビルなどの拠点にも順次スマートエネルギー設備を導入する計画を進めており、あわせてカーボンニュートラル社会実現への



対応の一環として各拠点の共用車両のEV化やEV充電器やクラウド型エネルギーマネジメントシステムの導入も進め、会社全体での総合的なエネルギーマネジメントを実現していく予定です。

自社の事業運営におけるカーボンニュートラル化の取組みを通してお客様企業等にも提案し、スマートエネルギーインフラ社会の実現を支援していきたいと考えています。

2) 農業分野における環境、社会貢献活動の取組み

シーキューブは、2018年度に新たな事業として農業に参入し、ミニトマトの生産を開始しました。当社のミニトマトは、ICTと最新の農業技術を活用して栽培され、平均糖度8度を超える高糖度プレミアムミニトマトであり、「スイートキューブ」というブランド名で首都圏の百貨店や全国の高級スーパー等で販売されています。私たちの自社農場「シーキューブさかほぎ農場」では、ハウス内の環境データ（気温、湿度、日射量など）をリアルタイムで監視し、ハウス内のミスト発生装置や遮光カーテン開閉装置等の自動制御を行うことで、トマト栽培環境の効率的な最適化を実現するとともに、自社開発の遠隔かん水制御装置により細かい水やり制御を実現することで、安定した高品質なトマトの生産を実現しています。

2022年度にはさらなる安定供給と生産性向上を目指し、約10,000㎡の大型ハウスを第2圃場として開設しました。

・農場環境における環境負荷軽減の取組み

一般的な園芸施設における暖房には重油を使用しますが、新農場では燃焼時のCO₂排出量や窒素酸化物・二酸化硫黄などの大気汚染物質の発

生が少なく環境負荷の軽減が可能で、エネルギー効率も高く、効率的に加温が行えるLPガス燃焼による暖房システムを採用しています。

また、生産過程で発生する植物残渣などの生ごみは、生ごみ処理機によりバイオ分解することで農場から出る可燃ごみを約80%削減しています。

加えて、農場内で使用する循環扇運転等に必要な商用電力の削減の取組みとして、太陽光発電設備（写真3）を自社工事にて設置し、農場で使用する電力の約1/3はこの再生可能エネルギーで賄える状況になっています。新農場ではこれらの取組みにより環境負荷を軽減し、持続可能な農業の実現に向け積極的に取り組んでいます。

・農場を活用した地域社会貢献活動

シーキューブさかほぎ農場では、トマトの定植・育苗・果実の収穫などの作業に従事していただく方として、自治体と連携し地域の方々やしょうがいを持った方々などにも働いていただいています。また、自治体や教育機関と連携して、地域の小学生や幼稚園の園児の皆さんを対象に、食や農業への関心を高めることを目的とした収穫体験を実施しています（写真4）。今年の1月には地元の坂祝小学校の2年生54名が生活科の授業の一環として農場を訪れ、児童にミニトマトの収穫体験やパック詰め作業を行っていただくとともに、適度なストレスを与えて糖度を高める新しい栽培方法やICTを活用した農場管理についても学んでいただきました。トマトが嫌いだった児童からも「甘くておいしい」という声があがり、トマトへの認識が変わる場面も見られ、地域の未来を担う子供たちの食への関心が高まる良い機会となりました。



写真3 自社工事にて設置した太陽光発電設備



写真4 収穫体験模様

また、さきほど紹介しました農場の太陽光発電システムは、屋外に非常用コンセントも設置しており、地域の大規模災害等における停電時には「携帯電話の充電スポット」として地域の方々に活用いただけるように準備を進めています。

このように、私たちは地域における農業事業運営を通して、地域社会への貢献活動にも積極的に取り組んでいきます。

4. 環境に配慮した活動への取組み

・環境マネジメントシステム

シーキューブにおいては、2002年に環境マネジメントシステム（ISO14001:EMS）の認証を取得し継続して環境関連法令の遵守徹底を図っており、EMSを運用・活用しながら環境経営やカーボンニュートラル社会の実現に向けた取組みを進めています。

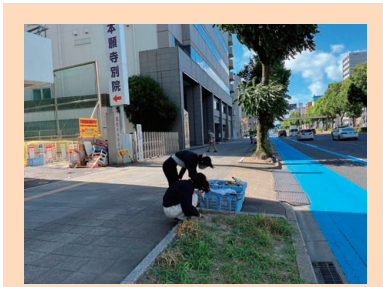


写真5 本社での清掃活動

・地域住民に配慮した電動バケツ車の配備

住宅街における深夜の現場作業の課題である騒音・振動対策として、2007年に低騒音バッテリーユニット付きバケツ車2台の導入を皮切りに、2009年より順次新型車両の導入を進め、現在27台が稼働しています。

・エコ事業所、自動車エコ事業所の認定

本社ビルは、環境に配慮した取組みを自主的かつ積極的に実施しているとして名古屋より、2003年度に「エコ事業所」として、また、愛知県より2007年度に「自動車エコ事業所」として認定されています。

5. 社会貢献の取組み

シーキューブグループでは、地域社会に貢献する施策委員会を中心に地域社会との良好な関係を築くために、さまざまな社会貢献活動に参加しています。

・地域清掃活動

各職場において、定期的に職場周辺を含めた清掃活動を実施し地域に密着した環境美化に努めています(写真5)。

・募金活動

年2回、タイガーマスク募金と称して募金活動を行い、社会福祉協議会等へ寄託を通じ、地域社会につながる活動の一環として、積極的に参



写真6 中日新聞社会事業団への寄託

加しています(写真6)。

・エコキャップ・切手八ガキ・非常食・献血の取組み

その他、社会貢献活動として、認定NPO法人が進める“ペットボトルのキャップを集め、再資源化し、世界の子供たちにワクチンを届けよう”という活動に賛同し、「エコキャップ運動」を展開し、ペットボトルのキャップの再資源化によってCO₂削減に取り組んでいるほか、使用済み切手や未使用はがきの収集、献血による人道的活動、大規模災害を想定した飲食物の確保の他、賞味期限の迫った災害備蓄品はNPO法人へ寄付をするなど、フードバンク活動にも積極的に取り組んでいます。

6. お客様からの信頼維持・向上にむけた取組み

シーキューブグループでは、お客様満足度向上に向けた取組みとして、サービステクノロジー活動を推進しています。

「施工現場等において、サービスの提供を受けるお客(利用者)様等の目線に立ち、お客様等の気持ちや付度し行動できる技量」をサービステクノロジーと定義し、お客様等に感動を与え、お客様等から称賛の声をいただいたシーキューブグループの従業員を始め、協力会社の方を対象にサービステクノロジー・リー



資料5 認定者ポスター

ダーとして認定し、褒賞する活動をしています(資料5)。

2010年から取り組み、サービステクノロジー・リーダー認定者は延べ444名、うちサービステクノロジー・リーダーとして5回以上認定を受けた方は「サービステクノロジー・マイスター」として認定(2023年7月時点で6名)されました。引き続きこれらの活動を通じて、お客様や地域住民の皆様から信頼される会社を目指します。

7. おわりに

シーキューブグループが取り組んでいるCSR活動の一部をご紹介いたしました。

通信建設事業を取り巻く社会環境は急速かつ大きく変化していますが、私たちシーキューブグループでは、コンプライアンスを基本とするCSR活動を推進し、すべてのステークホルダーから信頼される企業として、企業理念である「最善の技術で心を伝え人間性豊かな社会を創造すること」を目指し継続的に取り組んでいきます。